

2019年度 第2回CSR委員会 議事録

日 時 2019年6月27日(木) 13:30~17:25
 会 場 日本代協 会議室
 出席者 20名

(敬称略)

ブロック	委員名	ブロック	委員名	ブロック	委員名
上信越	小田島 綾子	南関東	安田 哲生	東中国	山田 眞理
北海道	池田 壮	東京	三浦 起世光	西中国	藤本 展久
北東北	寺田 昭夫	東海	福村 幸郎	四国	高嶋 英樹
南東北	沓澤 六雄	北陸	三上 茂	九州北	桜井 敏雄
上信越	近藤 亨	近畿	山口 裕貴	九州南	田中 栄治
東関東	伊藤 綱人	阪神	西川 秀俊		

<担当副会長> 横山 健一郎 <事務局> 専務理事:野元 敏昭、特命部長:小出 鋭(記)

：委員長、：副委員長

<委員会での決定事項>

- ・ぼうさい探検隊の進捗状況を各代協に毎月提供し、ブロック全体をフォローする
- ・街頭活動で配布するチラシとポケットティッシュ内のチラシをリニューアル
- ・次回委員会で警視庁サイバーセキュリティ対策本部のセミナーを受講
- ・防災・減災について各代協の活動内容を収集

議 事

1. 挨拶

1. 小田島委員長挨拶

- ・月末の多忙な中、委員会に出席いただき感謝申し上げます。
- ・本日は、日頃感じていることや活動で苦労していることを数多く話していただき、互いにアドバイスするなどして、我々の歩みを進めて参りたい。
- ・先日の理事会で2019年度の諮問事項が決定した。金子会長より、CSR活動が代協のブランドイメージを作っているとの発言があり、各代協で工夫して展開しているボランティアや高校生向けの出前授業、ぼうさい探検隊など、地域住民や代協会員が活動の様子やその効果を目で見て理解できるのが、CSR活動そのものであると感じた。
- ・委員会の中で、その意義を十分考えて、発信し、実行することで活動の幅が広がるのではないかと考える。
- ・消費者や地域貢献の立場で考えたCSR活動は、巡り巡って我々の本業にも直結する。
- ・ぼうさい探検隊の取組みは、応募件数ありきではなく、子供たちの安心や地域の安全を念頭に、苦労はあると思うが、委員会メンバーを中心に乗り越えて参りたい。
- ・また、仲間作り推進や日本代協アカデミー等に関しても、他の委員会と相互に連携し、目標達成に向けて協力していただきたい。
- ・委員会での論議内容をブロック内に確実に伝えていただきたい。
- ・より良い発想が浮かぶよう、アンテナを高くして活動に取組んでいただきたい。
- ・本日も熱心な論議をお願いしたい。

2. 司会進行・議事録作成者の指名

- ・司会進行に高嶋副委員長、議事録作成者に事務局が指名された。

・報告事項・情報共有事項

1. 報告事項

(1) 理事会・臨時総会・ブロック長懇談会報告

・事務局より、配布した三冠王関連資料、日本代協ニュース、理事会議事録・通常総会次第・全国会長懇談会次第の内容に沿って説明が行われ、以下の補足をした。

・2019年度の三冠王は、損保代理業国民年金基金の業務終了に伴い、従来の「仲間づくり推進」(今年度「会員増強」から名称変更)と「損害保険大学課程コンサルティングコース受講者募集」に「重点取組4項目から何れか1項目達成」で三冠とする。重点取組4項目は1項目達成で1冠獲得とし、3冠を超えた場合は最高6冠まで特別表彰とする。

・全国会長懇談会では、分散会を会員数による規模別にグループ分けし、事業計画の目標や組織活性化の具体策等の意見交換を行った。その後、警視庁サイバーセキュリティ対策本部によるセミナー「サイバー犯罪の現状と対策」を受講し、サイバーセキュリティ対策の理解を深めた。

(2) 2019年度諮問事項

・小田島委員長より、2019年度の諮問事項の説明があり、前年度までの抜本的な見直しや実効性向上を踏まえ、今年度は具体的な取組みになったと補足した。

・ぼうさい探検隊に関しては、三冠王の取組みにおける一冠となったことで、より推進しやすくなった。

・サイバーセキュリティ対策に関しては、取組む意義を理解し、警察と連携したセミナーによる啓発活動を実行し、サイバーテロの脅威から中小企業を守ることに役立てる。

・防災・減災の具体的な取組みについては、好事例を発信や新たな取組みが提案できるよう委員会で情報を収集・共有していく。一例として、ハザードマップ活用の理解を深めることとした。

(3) 前回委員会の振り返り

・前回のCSR委員会の論議内容、決定事項等を議事録で確認した。

・審議事項

1. 各ブロック活動報告

・事前に提出されたチェックシートの集約結果を確認し、今年度の活動や今後の予定を報告した。

(主な活動報告)

・(北海道)「健康事業所宣言」に役立つオープンセミナーを実施した。

・(やまがた)毎年桜の開花前の時期に開催している献血運動に参加した。

・(群馬)全会員の約6割が子ども110番の保険代理店に登録した。

・(千葉)過去の災害被害に学ぶ防災・減災セミナーを開催予定である。

・(神奈川)東京五輪を控えて、ユニバーサルマナー検定を計画している。

・(群馬)県庁を訪れ交通遺児支援福祉基金を贈呈した(今年で9回目)。

・(静岡)7月を強化月間として「社会を明るくする運動」に取り組んでいる。

・(富山)防災館の体験学習を新規に実施する。

・(滋賀)無保険車追放の取組みを年2回(5月・10月)実施する。

・(岡山)防災士資格を取得した会員約30名からなる「防災クラブ」で定期的に防災関連の勉強会を実施。

・(福岡)全支部で出前講座を開催予定。

・併せて、各代協の恒例行事が今年も予定通り開催されることと、昨年廃止したグリーン基金の寄付先団体とは各代協の尽力により関係継続していることが多数報告された。

2. ぼうさい探検隊の取組み

- ・小田島委員長より、地域の子供たちがマップ作成を通して防災・減災の感性を磨く、ぼうさい探検隊の意義を委員自身の言葉で関係者に丁寧に伝えることが重要と説明した。
- ・直近(2019年5月末時点)の応募状況は24団体であることを共有した。今年度は三冠王の取組み項目になったことを踏まえ、各代協にタイムリーに状況を伝える必要があるとの見解に至った。
- ・各ブロックの取組みや応募状況の連携方法につき、以下の報告があった。

(主な取組み)

- ・代協内の関係者に申込ツールや損保協会の専用サイトを案内して理解促進を図った。
- ・候補先団体をノミネートさせ、そのフォローする仕組みを構築した。
- ・子供たちが主役になり、行政を動かし、地域を動かす取組みであることを訴求し、4団体応募頂いた。
- ・ぼうさい探検隊担当者であることをPRするネームプレートを独自作成し、自身を奮い立たせている。
- ・地域の活性化に繋がる防災・減災の取組みであることを提案し、自治体が大きな関心を示した。
- ・応募状況はブロック事務局経由でブロック内に連携している。
- ・ブロック内のCSR委員とグループLINEでタイムリーに状況を共有している。
- ・応募状況については、日本代協事務局より各代協会長及び事務局に毎月提供し、各委員が担当ブロックのフォローをすることとした。

3. 街頭活動のノベルティについて

- ・事務局より、事前連携済みの地震保険チラシ案を2パターン提示し、意見交換を行った。見出し文言の修正や過去発生した震災情報を最新にする内容で完成させることとした。
- ・被災者の生の声を掲載する意見が出されたが、収集する作業負荷を考慮し、過去制作したドキュメンタリー映像を活用し、QRコードで表示することを検討した。
- ・チラシに同封するノベルティに関しては、ポケットティッシュの代替品としてウェットティッシュや3本入り綿棒等の意見が出され紆余曲折したが、コスト面の問題もあり、ポケットティッシュで落ち着いた。その際に中身のチラシをリニューアルすることとした。

4. サイバーセキュリティ対策

- ・伊藤副委員長より、既に所属代協の3支部でサイバーセキュリティ対策セミナー実施済との報告があった。偶然にもセミナー受講者がトロイの木馬の攻撃を受けたが、セミナー受講後ということもあり冷静に対処できたとのことである。
- ・事務局より、6/14に各代協会長はセミナー受講済みであり、各代協事務局へ相対する警察の連絡先も提供済みと報告した。サイバーセキュリティ対策の専門部署未設置の警察もあり、対応が均質ではない可能性があるかと補足した。但し、職業柄使命感を持って対応しているので、支部単位のみならず、小グループのセミナー開催にも応じる。
- ・また、代理店自身のサイバーセキュリティ対策として、業界が求める基準をクリアしている「損保クラウド」を案内した。月額費用は980円/IDで、9月末まで初期費用3,000円/IDが無料となるキャンペーン実施中である。
- ・各委員の更なる理解促進に向け、次回委員会終了後に警視庁サイバーセキュリティ対策本部によるセミナーを受講することとした。

5. 防災・減災の具体的な取組み

- ・小田島委員長より、まずは防災・減災について各地で取り組んでいることを中心にどのような活動があるか、様々な情報を収集し、共有したいとの考えを述べた。
- ・参考までに損保協会提供の「そんぼ防災 Web」サイト内のコンテンツを全員で確認した。

- ・また、災害被害を無くす「防災」から、被害を軽減する「減災」、加えて被害から早く抜け出す「縮災」といった一連の視点で論議することとした。
- ・具体的な取組み事例としては、山田委員より所属代協の「防災クラブ」の報告があった。年 4 回程度勉強会を実施し、今回はハザードマップの活用等をテーマとしている。日本防災士会のセミナー等にも積極参加している。資格取得費用は約 6 万円で、各自治体で助成金制度がある(自代協では資格取得者に独自に 1 万円を支給している)。委員会メンバーに山田委員を含め 3 名の資格取得者が在籍していることを確認。
- ・山口委員より、危険運転・交通事故を無くしたいというトラック運転士の願いから生まれた取組み「こどもミュージアムプロジェクト」について概要説明があり、今後近畿ブロック等で連携することを検討中と補足した。
- ・事務局より、東京都で日常的に活用できる防災ブック「東京防災」を各家庭や企業に無償配布されている事例を紹介した。
- ・次回の論議に向けて、各代協の活動内容を収集することとした。

・その他・閉会

1. 情報提供

- ・事務局より、日本代協アカデミーのスタートアップチラシ、JCM 社の活動支援金支給施策(期間限定)「みなさまの保険情報」の活用推進について説明した。「みなさまの保険情報」に関して、千葉県代協茂原支部が支部経費で購入して会員に見本配布する拡販策を代協全体で取組むことを掲載した新日本保険新聞の記事を紹介した。
- ・また、先日の通常総会における金融庁 横尾保険課長の来賓挨拶の中で、日本代協アカデミーに触れていることを紹介した。
- ・続いて、従業員 4,000 人削減を発表した損保会社の報道について説明した。国内市場の規模縮小や RPA 導入の影響等によるもので、希望退職は募らず、介護分野の関連会社等への配置転換で雇用は確保する仕組みである。

2. 横山副会長挨拶

- ・本日も熱心に論議いただき感謝申し上げます。
- ・先日公表された金融庁と損保協会との意見交換会(2/21 開催)においても、自然災害リスクやサイバーリスクの引受等がテーマとなっている。
- ・喫緊の課題としては、ぼうさい探検隊の積極推進、中小企業のサイバー対策の啓発、ハザードマップの活用を意識した防災・減災の取組みが挙げられる。
- ・情宣の仕組み作りと情報共有を軸に、委員会の決定事項を会員に伝え、一体となって活動することが重要である。
- ・また、自然災害における自助・共助・公助の関係では、自助と言える地震保険の直近付帯率は 63%である。この数字を意識して、更なる普及に注力いただきたい。
- ・委員長を中心に充実した論議ができており、引き続き各地での取組みをお願いしたい。

以上

次回開催日 2019 年 9 月 26 日(木) 13:30 ~ 17:00